



目次

- 教育長あいさつ…P1
- 教育委員コラム…P2
- 「マイスクール西大井」の新設…P2
- 品川コミュニティ・スクール DAY…P3
- スクール・サポート・スタッフと副校長補佐の1日を紹介し…P3
- 発達障害教育支援員の配置を拡充します…P3
- 歴史的資料を「しながわデジタルアーカイブ」にて公開中…P4
- 東海道品川宿石積護岸 区指定文化財に…P4
- 旧品川警察署品川橋交通待機所 国登録文化財に…P4
- 83運動にご協力ください…P4
- 学校改築を推進しています…P5
- ～放課後の居場所～すまいるスクール…P5
- 児童・生徒教育長表彰式…P6
- 全国大会出場助成…P6
- 教育長杯 各スポーツ大会の結果…P6

一人ひとりの可能性を引き出す教育を



品川区教育委員会

教育長 伊崎 みゆき

「遊んで学ぶスウェーデンのプリスクールが未来にどう貢献できるか。」5年前になりましたが、スウェーデン大使館で行われた幼児教育・保育の世界的研究者の方の講演テーマです。幼児教育の担当をしていた縁で、ヨーテボリ大学の幼児教育と保育の研究者でOECDなどの調査研究実績がある教育学部の教授のセミナーに参加する機会をいただきました。

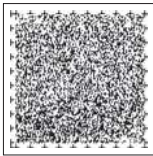
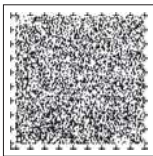
ここで改めて学んだことは、「子どもの遊びは学びであり、遊びながら学んでいくことを大切に。そのためには、子どもに応じた様々な場が必要であり、子どもの視点を大切にする」とであったと記憶しています。また、「コミュニケーションがなくては、質の高い学びにはならない」との言葉も強く印象に残っています。

この幼児教育の講演で得た「学びへの視点」は、学校教育にも通じる

と考えています。一人ひとりの児童・生徒の可能性を引き出す学びをどのように実践していくか、教育実践の場はもちろん、教育委員会として常に考え続けなければならないと思います。

現代社会を生きるだけでも、「教育」を受けたことがあります。だからこそ、教育に携わる者は、それぞれが持つ「教育」のイメージに違いがあり、コミュニティ、立場、経験など、その人が置かれた状況により、その意義や価値が多様であることを意識する必要があります。教育は学校だけでなく、当然に家庭や地域社会でも行われています。教育の原初的な意味である「命を育みながらケアをし、その発達を支援する」スタートである家庭、教育実践の専門家、行政、教育研究者などが協働し、「子どもへの貢献」を念頭に教育の価値を高めていくことが望まれていると考えています。

誰一人取り残さず、全ての人々の可能性を引き出す共生社会を実現するため、「人と社会のウェルビーイング」、すなわち、「一人ひとりが生涯にわたって身体的・精神的・社会的に良い状態である」とともに、地域や社会全体が豊かさを感じられることが重視されています。教育においても、一人ひとりの子どもの「ウェルビーイング」を獲得するためにも、教員や地域社会の「ウェルビーイング」も高めていかななくてはなりません。これからも、相互に多様性を認め合い、他者を大切にできる教育環境の整備に努めるとともに、多様な子どもたちの可能性を引き出すことのできる品川の教育を進めていきたいと考えております。



教育委員
コラム

失敗「できる」 子どもの強さ



品川区教育委員会
教育委員 稲垣 百合恵

「子どもに成功してほしい」と、私も含めて多くの親は願っています。でも、「失敗しないでほしい」とは、どうか思わないでほしいのです。

子どもにとって、失敗は経験でありチャンスです。色々なことを試して失敗できるのは子どもの特権。挑戦をして失敗をし、「どうして失敗した?」「どうすればうまくいった?」と試行錯誤することが、学び

になっていくのではないのでしょうか。子どもが迷ったときは、選択肢を広げたりアドバイスをしたりと、どうかフォローはしてあげてください。ですが、最終決定は必ず子ども自身にゆだねます。大人と考え方や結論が違うのは当然なのです。

最終的に子どもの人生の責任を取るの本人です。「自分で選んできた」と思える子と、「親に言われてこうなった」と思う子。どちらが前向きに自分の人生を切り拓いていけるでしょうか。

自分で選べば当然、失敗もたくさんします。そんなときは、「だから言ったじゃない」をぐっとこらえて、親の責任として全力でフォローしましょう。失敗を乗り越えるほど、「自分は失敗しても大丈夫」と思えるようになりまます。それが、困難に挑戦していく強さ、挫折から立ち上がる力を与えてくれるはずです。

大人の社会は「結果」が全てかもしれません。ですが、子ども時代には大きな失敗をしたとしても、一度で人生がダメになったりはしません。無謀であっても挑戦して、その過程で何を学んだかこそが、人生の糧になっていくのです。どんな結果であっても、そこまでの努力や「挑戦したという事実」は間違いなく彼らの人生にとって大切な経験になっているはずなのです。結果よりも、その「過程」をぜひ豊かなものにしてあげたいですね。

転びそうになる子どもにも思わず手

を差し伸べてしまう。親の本能でもありますが、永遠に自分の手で守れるわけではありません。ならば、転んだときにどうやって立ち上げれば

「マイスクール西大井」の新設

品川区では品川区立学校に在籍し、主に心理的要因で不登校になっている児童、生徒が通う教室「マイスクール」を八潮・五反田・浜川に設置しています。この度、区内4か所目となる「マイスクール西大井」を開設します。

マイスクールには、元校長や教職経験者、教員免許を持つ指導員や心理職員が児童・生徒一人ひとりにわかりながら、学習や体験的な活動の場を提供し、社会的な自立ができるように在籍校等と協力しながら支援を行います。

いいのかわからないためにはどうするかを、彼ら自身が考えられるように育てることが、親の役目ではないかと思うのです。

マイスクールの見学・入室に関する手続きは、在籍校を通して行います。見学や入室を希望する場合は、在籍校へ事前に御相談ください。

●開設予定日

令和6年5月

●開設予定地

西大井4-1-8

(旧大井第三地域センター)



品川コミュニティ・スクールDAY

校区教育協働委員会に児童・生徒が参加する「品川コミュニティ・スクールDAY」を各校で開催しました。令和5年4月に施行された「子ども基本法」の理念を踏まえ、子どもたちの声を聴く機会をつくるため「より良い学校にしていくなために」などのテーマで、委員や地域住民、保護者、児童・生徒、教職員が熟議（熟慮と議論）を行い、今後の地域と学校の在り方を検討しました。

参加した委員は、子どもたちが自分の言葉でしっかりと意見を伝えていたことや真剣に取り組む姿勢など、普段の授業では見られない児童・生徒の姿を見ることができたという肯定的な意見が多くありました。また、参加した子どもたちからは、「委員の方々の意見を聞き、自分の考えをより深めることができた。」「私たちの知らないところで、より良い学校にするために、話し合いが行われていることが分かった。」「私たちの意見が、これからの学校生活に生かされるとよいと思った。」などの声

がありました。今後も、児童・生徒の声をはじめとする多様な意見を生かしながら、品川コミュニティ・スクールの推進してまいります。



品川コミュニティ・スクールDAYの様子(白野学園)

スクール・サポート・スタッフと副校長補佐の1日を紹介します

働き方改革を進めるため、スクール・サポート・スタッフ(以下SSS)や副校長補佐を学校へ配置し、教員や副校長の業務を支援しています。

SSSの1日は、職員室にある依頼ボックスの依頼表を確認することから始まります。(品川学園の場合)各学校により運用が異なります。)依頼内容は、授業で使用する教材の印刷・配布、ポスター・チラシ等の掲示、学校公開や行事の準備・当日受付作業等、これまでは担任が業務時間終了後に行っていた事務作業をSSSが代わりに行います。

一方、副校長補佐は、職員の勤怠の確認・電話対応・来校者や来賓への郵送物の作成・お便りの編集確認等、これまでは副校長が担っていた業務を一部負担しています。どちらの職種も教員や副校長の業務をサポートすることで、事務負担の軽減・教員の在校時間の縮減へとつながる重要なお仕事です。今後は全校への人員配置を目標とし、多くの学校で教員の負担軽減ができるよう努めていきます。



SSS・副校長補佐の勤務の様子(品川学園)

発達障害教育支援員の配置を拡充します

令和4年度からモデル実施してきた発達障害教育支援員ですが、令和

6年度より小学校・義務教育学校前期課程で全校配置する予定です。

発達障害教育支援員は、発達障害等(自閉症、情緒障害、学習障害および注意欠陥多動性障害)のある子どもが安心して円滑に学級での学校生活を過ごすことができるように、必要な支援を行います。

毎日1名が配置され、学級担任をはじめ、訪問指導教員等と共有した情報を基に、一人ひとりの子どもの状況に応じて寄り添った支援を行います。特別支援教室(訪問指導教員が各学校を巡回して、通常の学級に在籍する発達障害等のある児童・生徒を指導する教室)を利用して、子どもは、在籍学級でも支援を受けることで、学校での集団生活が過しやすいくなり、特別支援教室での指導の成果を日常的に発揮しやすくなります。

